

Alert 30号

反天皇制運動

[通巻 412号]
2018年
12月4日発行

第2期・反天皇制運動連絡会

今日の Alert

- 天皇「代替わり」——象徴も、神聖も問題にする闘いを!——*2
- 反天ジャーナル——たけもりまさ、きょうごのりこ、遺産放棄娘*3
- 状況批評——米国へ向かう移民の群に何を見るべきか——日本への警告——太田昌国*4
- ネットワーク——即位・大嘗祭違憲訴訟が始まります——佐野通夫*7
- 終わりにしよう天皇制!「代替わり」反対ネットワーク——賛同の呼びかけ*9
- マスクミジかけの天皇制——「秋篠宮」発言をめぐる(天皇(家)政治)と(安倍政治)
——(壊憲天皇明仁)その27——天野恵一*10

野次馬日誌*11
反天日誌*15
集会情報*16
集会の真相*13
学習会報告*15



250円

世間は師走だそうだ。街の飾り付けも、TVの映像も、電車のつり広告も、道を歩く人びとも、そういうわれてみれば、みなそのように見える。しかし、いったい師走らしさとはなんだ?

クリスマスと正月に向けた商店街の賑わいか。その賑わいのなかで、ボーナスで少し暖まった懐をちょびっと解放する嬉しい一時か。あるいは大掃除。あるいは短い休暇の嬉しさと悲しさ?

少なくともこの30年間、私には12.23集会と忘年会、大掃除と短い休暇の悲しさだけが師走の記憶かもしれない。その12.23集会も今年が最後となる、ということは、集会後の楽しかった忘年会もなくなるか…。お~、淋しい。いや、そういうことを言いたかったわけではない。

12.23集会は、この日こそは天皇制の侵略戦争責任を、これからは植民地主義も加わって、天皇制の問題を考えるにふさわしい日であるとして始めた。植民地主義と侵略戦争のさなかに生まれた明仁の誕生日。そして「東京裁判」によって、A級戦犯が処刑された日。天皇制の責任を問うにピッタリの「記念日」であり、ヒロヒトからアキヒトへの代替わりで、天皇制の植民地主義・戦争責任の問題が曖昧化されることを懸念する私たちには、とても空気の入る集会としてあった。

アキヒトからナルヒトへの代替わりで、私たちの懸念はさらに膨らむ。そして「記念日」に反対し、そこから歴史を紐解き、声を上げていく行動の一つが消える。12.23がなくなると、天皇制の植民地主義・侵略戦争の歴史は残り、そのことへの無責任体制も続いている。これから反天皇制運動はなかなかに困難である……。「記念日」闘争が立ちゆかなければ、だな。

(大子)

●定期購読をお願いします(送料共年間4000円)

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所気付 落合ボックス

TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail: hanten@ten-no.net>

●以前の情報はこちら▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

今月の

Alert

天皇「代替わり」——象徴も、神聖も問題にする闘いを!



本号のこの欄で、真っ先に取り上げるべきは、なんといつても一月三〇日に公表された秋篠宮記者会見報道をめぐる一連の動きだろう。秋篠宮は、「宗教行事と憲法との関係はどうなのか」というときに、やはり内廷会計で行うべきだと思つています」と述べ、大嘗祭が天皇家の私費とされる「内廷費」で賄われるべき、「大嘗祭自体は絶対にすべきものだ」が、「できる範囲で身の丈に合つた儀式で行うのが、本来の姿ではないかなと思います」などと述べた。

すでに報道でも指摘されているように、これが前回の「代替わり」をめぐって各地で巻き起こつた政教分離訴訟などでの議論を意識していることは間違いない。発言によって政府が「政教分離論争の再燃を懸念」とも報じられている。だが、「皇室の行事には私の考え方というものがあってもよいのでは」と秋篠宮が前置きして発言していることに注目すべきである。これはつまり、大嘗祭をめぐる政教分離とは何かといふ議論の枠を、たんに内廷費が公費（宫廷費）かという範囲に限定させる。皇室の側からの枠組み設定としてとらえなければならない。実際、大嘗祭の儀式内容は不間にされたままだ。マスコミの整理も、「国民のために五穀豊穣を祈る儀式」などと説明するだけで、それが新天皇が「天皇靈」を身にまとう「國家神道」的な神格化儀式であることは語られない。大嘗祭といふ儀式そのものの内容も、きちんと問われなければならないのだ。

皇室の私事とされるいわゆる「宮中祭祀」も

問題だが、大嘗祭は、その規模も社会的影響も格段に異なる宗教儀式である。内廷費だから私的な行為であり、政教分離に抵触しないなどといふことはできない。政教分離原則が規定しているのは、国家の機関が宗教行為をしてはならないことだ（私たちは、天皇制自体がひとつの中の宗教だとも考えるが）。だいたい、内廷費自体が税金である。仮に莫大な資金のかかる範囲で身の丈に合つた儀式で行うのが、本来の姿ではないかなと思います」などと述べた。

すでに報道でも指摘されているように、これが前回の「代替わり」をめぐって各地で巻き起こつた政教分離訴訟などでの議論を意識していることは間違いない。発言によって政府が「政教分離論争の再燃を懸念」とも報じられている。だが、「皇室の行事には私の考え方というものがあってもよいのでは」と秋篠宮が前置きして発言していることに注目すべきである。これはつまり、大嘗祭をめぐる政教分離とは何かといふ議論の枠を、たんに内廷費が公費（宫廷費）かという範囲に限定させる。皇室の側からの枠組み設定としてとらえなければならない。実際、大嘗祭の儀式内容は不間にされたままだ。マス

コミの整理も、「国民のために五穀豊穣を祈る儀式」などと説明するだけで、それが新天皇が

「天皇靈」を身にまとう「國家神道」的な神格化儀式であることは語られない。大嘗祭といふ儀式そのものの内容も、きちんと問われなければならないのだ。

秋篠宮の発言は、いわばこの訴訟に対する「先制攻撃」であると言えよう。政教分離を狭い形式的な論議だけにしてしまってはならない。さて、反天連では今年も12・23に討論集会をもつ。この日が「天皇誕生日」であるのは今回で最後だ。「平成三〇年」を通して確定されてきた戦後象徴天皇制国家の到達点を確認し、「次」の天皇制の動向についても、ある程度測定しながら来年一年間の闘争方向を議論していく集まりにしたい。

また、すでにお知らせしているように、この間、首都圏においては、各地で反天皇制運動に取り組んできたグループが、反元号署名運動など共同した行動を積み重ねながら、「代替わり」反対の大きな声を作り出すべく動いてきた。一月二五日には、集会二〇〇名、デモ二二〇名の参加で、「終わりにしよう天皇制2018大集会&デモ」と銘打った行動に取り組んだ。そしてこの日をもつて私たちは、「終わりにしよう天皇制！『代替わり』反対ネットワーク」（略称・おわてんねつと）を正式に結成し、さまざまな行動に取り組んでいくことにした。賛同団体を募っているので、詳しくは本紙に掲載した呼びかけ文を見ていただきたい。

おわてんねつとしての次の取り組みは、二月二四日に予定されている天皇在位三〇年式典に反対する行動だ（詳細未定）。これは、「天皇陛下御在位三十年を記念し、国民こぞつてこれまでの筆者も触れているし、来年の一連の「代替わり」儀式に対する差し止め訴訟を呼びかける文章も入っているので、これ以上はふれない。秋篠宮の発言は、いわばこの訴訟に対する「先制攻撃」であると言えよう。政教分離を狭い形式的な論議だけにしてしまってはならない。さて、反天連では今年も12・23に討論集会をもつ。この日が「天皇誕生日」であるのは今回で最後だ。「平成三〇年」を通して確定されてきた戦後象徴天皇制国家の到達点を確認し、「次」の天皇制の動向についても、ある程度測定しながら来年一年間の闘争方向を議論していく集まりにしたい。

さらに、例年取り組んでいる反天皇制運動の実行委員会の2・11反「紀元節」行動の準備も始まっている。即位・大嘗祭において前面化する、象徴天皇制においても確実に保持されている天皇制の神權主義的な側面が、日本の「文化、伝統、歴史」や天皇の「祈り」なるものを通じた、全体としての象徴天皇制の統合機能の重要な構成要素としてあること。こういった問題をあらためて問うていきたい。近く呼びかけを発することになるので、こちらへの参加賛同もよろしくお願いします。

（北野聰）

「平成の終わり」に反天皇を叫ぶ意味

アンチ五輪トーチ 燃えろー！

流行語大賞 「負の遺産」！?

人生一度目の天皇代替わり期に際して、直球で反天皇（制）！を叫べなくなっている自分を認めざるを得ない。ヒロヒトよりアキヒトはまだマシとか思つてゐるわけではないし、よりメンンドクサイことになっているとは思う。戦後リペラルを標榜し、「親父のように嫌われたくない」とでも言ひたげな「コニ」顔は、国民を「一億総嫌われたくない症候群」へと導いた。多分、その裏にはやっぱり日本人はえらくて立派なんだよねという排外的空氣がある。かの大企業ニッサンですら「コノ」叩きしかできず、外国人を労働力としてしか受け入れきれず、「弓き」もり」「過労死」などをスルーして人手不足を煽るだけの日本政府。

そんなつまらぬ血統にしがみつく「平成の終わり」に、自分は朝鮮人であるということを明快に主張して生きている朝鮮学校コミュニティに吹く空気がさわやかだ。高校無償化裁判でことごとく続く「敗訴」にもめげずに、今こそ街で声を上げ始めた日本で生きる若者たちだ。眞の民族的アイデンティティを掲げる彼らの前でこそ、天皇の戦争責任を叫び、ともに天皇制に対抗する社会を築いていけたらと小さく思つ今日この頃である。

（排外主義にNO！福岡／たけもりまさき）

韓国から「平昌オリンピック反対連帯」の仲間たちがオリ・パラ開催地に引き継がれる反五輪トーチを持つてやってきた。アンチ・トーチは2010バンクーバーで誕生。便器に使うラバーカップを聖火に見立てた優れもの。ロンドン、ソチ、リオ、平昌を経て東京へ。自然破壊と開発による住民排除に抗して闘つ多くの人々からバトンタッチ。

時代錯誤の五輪開催。東京の次は、ハンブルク、ブタペスト、ローマが撤退、パリ（2024）、ロス（2028）同時決定という異例さだ。2026冬季は住民投票の結果カルガリーが撤退、札幌も立候補を見送った。

錯誤でも、開催には無論大きな意味がある。原発事故からの「復興」を掲げた惨事便乗型資本主義で儲ける奴らは誰だ！ 一〇月には聖火リレー本番誘致のための模擬リレーをいわき市等が開催、小中高生一二〇人に国道一六号線を走らせた。事故収束には程遠い福島で、ジョビレッジをスタートに子どもらを動員するやり口に胸が痛む。

最終日、利権絡みの五輪建設ラッシュの東京湾岸ツアード。選手村は五輪後、一、六一億の土地を一二九億円で民間に売却予定で「HARUMI FRAG」（一四棟五六三三戸一二〇〇〇人の街として再開発）の看板が。アンチ・トーチの炎は民衆の怒りだ。燃えろー！（きょう／＼のり）「腹立つ！」

なんと時間の流れが早いこと！ あつという間に師走に入り、今年も残りわずか。この一年「腹立つ！腹立つ！」を何度もなえたことだろう。その回数は増すばかりである。

ところで年末になると流行語大賞なるものが発表されるのが恒例だが、私的には「負の遺産」を推したい気分。

まず膨大な軍事費。米兵器のローンの急増で、防衛省は国内防衛関連企業六二社に對して、防衛装備品代金の支払いの延期を要請。それにしても防衛関連企業がこんなに多いとはこれもいつの間にやらで驚きである。

そして、二〇二五年の大坂万博決定。バブル崩壊後に事業が頓挫していた「夢洲」が会場とのことで、五輪施設の労働現場の過酷さが漏れ伝わってくる。入管法改正案も強行採決されたが、建設現場では外国人労働者への「違法」が横行しているという。五輪の次は万博とはあきれるばかりだ。

現場の過酷さといえは原発労働者。福島原発事故から八年目にもなるといふのに、事故処理もできない状態で、「温暖化対策」を盾に政府は新小型原発開発方針を打ち出した。まあ次から次に「負の遺産」を増やし続けてくれること！ えつ大賞に一二億円！ 天皇制、これが負の元凶か。民衆の怒りだ。燃えろー！（きょう／＼のり）「腹立つ！」

（遺産放棄娘）

反天
皇
シ
ヤ
ー
ナ
ル

状況 批評

思想・状況・批評

米国へ向かう移民の群に何を見るべきか ——日本への警告

太田昌国（民族問題研究）

今から四〇年以上も前、私は当時放浪していたラテンアメリカ地域で幾度も陸路の国境を越えた。多くの場合、或る国の出国手続きを税関で終えると、次の国の入国税関までは、牧歌的な野山の風景の中を何百メートルか歩くと、目的の建物へ着いた。大都市に直結する国際空港と違つて、陸続きの国境はどの国にとつても「辺境」にあつて、税関にも必要最小限の人員しか配置されておらず、出入国手続きを管理してさえいればいいのさ、という印象を受けた。税関職員も、その国が厳格な軍事政権下にない限りは人懐っこく、あれこれ冗談を言いながら、ゆつたりと「職務」を果たすのだった。国境付近に住む人々は、お互いに旅券なしで自由往来しながら、お互いの田畠で収穫した物の売り買いや物々交換をしていた。それは、「国境」なるものの人為性を思わせられる光景であつて、したがつて、大げさに言えば、国境なき／国家なき「類的共同体」の未来像を幻視できる現場でもあつた。

だが、最初に越えた国境は違つた。ロサンゼルスでしばらく過ごした後、本来の目的地であるメキシコへ陸路で向かつた。サン・ディエゴでグレイハウンド・バスを降りて、何車線もの広い車道の脇を通つて、米国の出国税関に入る。メキシコへ向かう米国人の車はぎつしりだが、旅人以外に歩いている者はいない。無機質というかビジネスライクというか、およそ人間味のない応対を受けて後、しばらく歩いてメキシコ側へ着く。饒舌な税関職員とのやり取りを終えて、税関の外に一足歩み出る、そこはカオスだ。荷物を持ってあげる、ホテルに案内するよ、タク

シーに乗らないか、ピーナツは要らないか、マンゴーだよ——ありとあらゆる声が掛かってくる。幼い子どもたちも多い。大丈夫、自分でやるし、今は要らない——と遮りつつ、こころは、なぜか、浮き立つ。人間臭いその雰囲気は、数週間過ごしたロサンゼルスのそれとはまったく違うのだ。メキシコ側の国境沿いのその町は、ティファナといった。見え富の差は、もちろん、歴然だ。メキシコを舞台にしたサム・ペキンパーの映画のシーンがいくつも目に浮かぶようだ。

それから四五年、今この町には、主として中米ホンジュラスを出て米国への入国を目指す人びとが続々と詰めかけている。米国のトランプ大統領は、移住希望者の「長征」が始まるや否や、国境に軍隊を配備して入国を阻止すると豪語したが、数千キロの道を歩き続ける人びとは一様に「故国ではギャングによる殺人事件が多く、とても生きてはいられない」と語っている。他方、九千人の移住希望者が一気に押し寄せてきて、治安・衛生管理などの面で不安を抱えたティファナの住民が「移民反対」の集会を開いたとか、国境の強行突破を試みた一部の人びとに対して、配備されている米国軍が催涙ガスを発射して撃退したとかのニュースも流れた。とうとうここまで来たか、と私は思った。

ホンジュラスといえば、二〇世紀初頭から半世紀、米国のユナイテッド・フルーツ社が思うがままに支配した「バナナ共和国」の先駆けだ。対米輸出に圧倒的に頼らざるを得ないホンジュラスの歪な経済構造は、

そこから生まれた。二〇世紀後半の現代になつても、ラテンアメリカ各地域は、大国と国際金融機関が主導するネオリベラリズム（新自由主義）の政策路線によつて世界に先駆けて席捲されてきた。それは、貧しい第三世界諸国が、資産・所得の公平な再分配や福祉に重点を置いた社会改革政策を行なわないまま、市場原理を軸にした経済の自由化や規制緩和を押しつけられる路線だ。ネオリベラリズム路線は、その後先進国にも逆流して、日本でもとりわけ小泉・安倍政権下で推進され続けられてきているから、私たちも、企業に有利な労働条件・雇用形態の改定・福祉切り捨て、公共部門の廃止と民間「活力」の採用などの政策を通して、その破壊的な「猛威」を知つていよう。

この路線の下では、第三世界諸国の場合には、融資と引き換えに、国際収支の改善と債務返済を優先させられる。バナナやコーヒーの輸出で外貨を稼いでも、それは国内民衆に還元される以前に債務返済に充てられるのが条件だから、先進国に還流してしまう。その繰り返しだ。ホンジュラスでも、一九九〇～九四年のラファエル・カジエーハス政権がこの路線を推進した。それ以外の時期でも、例えば、隣国のニカラグアやエルサルバドルが革命的な激動の時代を迎えていた七〇年代後半から八〇年代初頭においても、米国は自らに忠実なホンジュラス政権を都合よく利用した。ニカラグアに革命政権が成立した一九七九年以降は、ホンジュラスの米軍基地を強化し、北部国境から反革命部隊（「コントラ」と呼ばれた）を侵入させて、革命を潰そうとした（これは、ケン・ローチ監督が一九九六年に制作した映画『カルラの歌』に描かれているから、ご覧になつた方もおられよう）。一九九〇六年、ホンジュラスには珍しくも、マヌエル・セラヤを大統領とする中道左派政権が成立すると、米国は右翼を支援して、二〇〇九年のクーデタでこれを倒してしまつた。その後いかなる性格の政権が出来て現在に至つてはいるかは、推して知るべし、だらう。総人口九二〇万人のうち貧困ライン以下の生活者は六〇〇万人

を超えているという。対人口比の殺人事件発生率も世界一高い。それが、「移民キヤラバン」に加わる人びとがいう暴力の根源なのだろう。

ジャーナリスト・工藤律子に、『マラス——暴力に支配される少年たち』と題するすぐれたルポルタージュがある（集英社、二〇一六年。現在、集英社文庫）。ホンジュラスの若者ギャング団「マラス」を取材した本書は、今回の事態を予見したかのような好著だ。工藤によれば、ホンジュラスでマラスの存在が表面化したのは一九九〇年代初頭である。新自由主義路線に忠実な、前記ラファエル・カジエーハス政権期に重なり合う。当時、米国はカリフォルニア州知事が、犯罪歴のある中米出身の若者たちを本国へ送還する追放策を実施していた。ホンジュラスにも三千人の若者が戻つてきた。

ラテン系住民がもともと多いカリフォルニア州では、一九二九年の世界恐慌以来、極貧状態・家庭崩壊・失業・雇用機会の欠如・低い教育水準・差別などの社会問題を背景に生まれた若者ギャング団が「脈々と」受け継がれている。米国の移民政策には、レタスの収穫期のような繁忙期になれば「不法」入国者であつても雇用し、閑散期になると国外追放するという一貫した路線がある。これでは、右に挙げた社会問題が一向に解決され得ないことは、容易に見てとれよう。故国に追放された三千人の若者の、ホンジュラス→米国→ホンジュラスという往還をめぐる物語は個別にあるには違ひないが、背景には共通のものがあろう。追放された一九九〇年以降の時期にそれら若者の年齢が二〇代から三〇代であつたと推定するなら、時代的には以下の共通の背景が考えられる。（1）米国政府と多国籍企業によるホンジュラスの政治・経済・社会の全的支持・それは同国の「国家主権」を侵すほどの水準だろうが、国内には米国に癒着してこそ利益が得られる一部寡頭階級が伝統的に形成されていよう。（2）若者たちは、その体制の下では仕事がないからこそいつたる米国へ出たのだが、故国に戻つても、政権が追従している、社会的格

差を是正する政策を欠いた新自由主義路線の下にあつては、働き口は容易には見つからなかつただろう。（3）社会の最下層に押し込まれた人びとが掴まされている、底辺に漬のように、しかも重層的に積み重なつた「マイナスのカード」をひっくり返すのは容易なことではない。（4）ニカラグア革命を潰す「コントラ」戦争への加担を強いられる中で、圧倒的な軍事力を誇る超大国の「価値観」を多かれ少なかれ刷り込まれただろう。米国が、自分の国（ホンジュラス）に設置した軍事基地を最大限に活用して、他民族（ニカラグア）の土地で発動する「低強度戦争」を見て育つた彼らは、超大国が「敵」にふるう有無を言わせぬ暴力の「価値」を、哀しくも、身体化せざるを得なかつたかもしれない。

他にも共通の背景を挙げることはできようが、これで十分だろう。政治の任に当たる国内政治家とそれを支える外部勢力が、そこに生きる人びとがまつとうに生きることのできる条件を整備するどころか真逆の政策を採用し、それによつて一部の者たち（外部の超大国と国際金融機関、および国内の少数支配層とその取り巻き連中）の手に富を集中させ、その路線を実現するために必要とあらば躊躇うことなく暴力（戦争）をふるうも——これこそが、幼かつた／少年だった／青年になりかけていた彼らが見せつけられ、身に染みて体験した世の中の現実だった。彼らが仕事を求めて行き着いたロサンゼルスで、またホンジュラスは首都のテグシガルバに送還されて、個人や集団（マラス）のレベルで、かの国家に似せたふるまいをしたところで、いつたい誰がそれを非難できよう？歴史的に見て、古今东西南北、「国家（＝政府）」の側がこのような自らの所業について反省し、生き直すことはきわめて稀だ。ホンジュラスに對して一世紀以上にもわたつて、右に見たような不正常な関係を一方的に押しつけてきた米国の現大統領の発言は、そのことを一点の曇りもなく証明している。だが、工藤の書『マラス』は、かつてこの集団に属して乱暴狼藉の限りを尽くしていた元若者が、その後送つてある別な人生

の在り方を、最終章「変革」で描いている。その前の章では「マラスの悲しみ」も描かれていて、「生まれつきのマラス」ではあり得ない人間の変革可能性が暗示されている。

ホンジュラスを出発した「移民キャラバン」の因果の関係をいくらか長く述べてきたのは、ほかでもない、「移民問題」に関わつて日本の現状を対象化するためだ。排外主義的な本質を陰に陽に見せつけてきた安倍政権は、二〇一八年六月、いわゆる「骨太の方針2018」を閣議決定し、新たな外国人労働者受入れ制度の創設を表明した。外国人労働者の導入は、安倍政権の支持基盤である排外主義的右翼層の離反を招きかねない「危険な」政策である。法務省が「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律案の骨子について」を公表したのは一〇月二二日のことだつた。衆議院での審議入りは一月一三日、それから二週間有余の現在（二二月一日）、政府はろくな答弁もできないままに衆議院を強行通過させ、審議は参議院に回されている。審議が深まつて、いろいろな現実があからさまになつては困るのだろう。外国人労働者を「雇用の調整弁」としか考えていない政府・企業・社会の現状では、移民受け入れの長い歴史の果てに現在がある米国とも違う深刻な問題を私たちは抱えることになるだろう。今ですら、食い物にされてきた実習生や性産業に働く女性たちの怨嗟の叫び声が、この社会の片隅には充满しているのだ。「偏見」が商売になり、政治家の嘘などには誰も関心を寄せなくなつたこの社会には……。

即位・大嘗祭違憲訴訟が始まります

佐野通夫（即位・大嘗祭違憲訴訟の会呼びかけ人）

「反天連」のニュースですから当然のことですが、私は改憲論者です。1条から8条までは廃止しなければなりません。しかし、現憲法を改正するに至つてない現在では、違憲（壞憲）行為には反対していかなければなりません。

二〇一九年に天皇が退位し、皇太子が即位するということが言われています。

二〇一六年の天皇の「ビデオメッセージ」に始まつた「退位」騒ぎは、二〇一七年六月一六日に次のようないくこと、が言われていました。

「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」という「法律」を作りました。

「この法律は、天皇陛下が、昭和六十四年一月七日の御即位以来二十八年を超える長期にわたり、国事行為のほか、全国各地への御訪問、被災地のお見舞いをはじめとする象徴としての公的な御活動に精励してこられた中、八十三歳と御高齢になられ、今後これらの御活動を天皇として自ら続けられることが困難となることを深く察しておられるごと、これに対し、国民は、御高齢に至るまでこれらの御活動に精励されている天皇陛下を深く敬愛し、この天皇陛下のお気持ちを理解し、これに共感していること……」

不気味な条文です。法律名では「天皇」となつているものが、条文の中では「天皇陛下」と「天皇」に書き分けられています。人間明仁を指すときに「天

皇陛下」、制度上の役割を示すときには「天皇」としているかのようですが、法律なのに敬語が満載されてもいます。

日本国憲法が規定している国事行為以外の天皇の行為は、憲法原理からは認められるものではあります。「象徴としての公的な御活動」など、憲法上、存在しえないので。それどころか、天皇は憲法が定めた特別の公務員として「憲法を尊重し擁護する義務を負」います（日本国憲法第99条）。

天皇は憲法上、世襲の「象徴」とされており、天皇となるための手続きは何も書かれていません。しかし、現天皇就任の際の一九九〇年には、「即位の礼・大嘗祭」が一二三億円という膨大な税金をかけて行なされました。皇室典範には「皇位の継承があつたときは、即位の礼を行う」とあります。即位の礼の内容についての定めもなく、大嘗祭は記載すらありません。実際に行なわれた即位礼と大嘗祭をふくむ一連の儀式は、政教分離・主権在民原則の憲法原理に反するものであり、このときにおこされた訴訟で大阪高裁は、「違憲の疑い」を明確に判示しました。

そもそも、「すべて皇室財産は、国に属するもの（日本国憲法第88条）であり、その財産も、天皇が日常的に使つている経費も、もともと私たちの税金です。私たち、天皇の生前代替わりに際して、このよ

うな憲法違反の行為に税金支出をさせないよう、公費支出差し止め訴訟（納税者訴訟）としてこれを問う裁判を起こします。

一月九日には、文京シビックセンターにおいて五〇人の仲間とともに、即大違憲訴訟の会・立ち上げ集会を行ない、大阪高裁判決を勝ち取った加島宏弁護士から「二〇一九年代替わり儀式の法的諸問題——先の即位礼・大嘗祭訴訟の経験を踏まえて——」を学びました。また、提訴予定であることが、東京新聞はじめ、全国一〇紙以上に掲載されました。すなおに考えれば、問題満載の天皇制と代替わり儀式ですが、先方はさっそく警戒しているのか、「原告が提起しようとしている訴訟が、少なくとも現行の司法制度においては、いかにおかしいものであるか理解できることでしょう」と結論づける怪しげな弁護士（？）ブログが登場したり、ついには秋篠宮に「大嘗祭について内廷費（手元金）でやるべきではないか」と発言させたりしています。年間約三億円の内廷費（これもゴーンの給与と同じく庶民から見たら信じられない金額ですが）では、前回二〇億円以上かかったともいわれる大嘗祭の費用を貯えないと見越しながらの「国民に配慮する姿を伝えたい」とアピールするための発言です。そもそも内廷費も税金であり、本来はその金額や使い道も精査されるべきです。内廷費を使えば政教分離原則には抵触しないとはなりません。

第1次提訴分は締め切りますが、今後も原告を募り、第2次提訴、第3次提訴を継続する予定です。多くの方の参加を願います。私たちのHP（<http://sokudai.zhihi.net/>）をどうぞご覧ください。

戦前の日本が、世界恐慌の果てに「一君万民」思想を生み出し、天皇制ファシズムをもたらした歴史を想起しないわけにはいきません。私たちはどんなに苦難に満ちていても、労働運動の力によって生活を向上させる道を放棄してはいけません。



●神格性を保持しつづける象徴天皇制

大嘗祭（2019年11月予定）を頂点とする一連の代替わり儀式は、天皇の神格継承の意義が込められた国家神道的なものです。象徴天皇制は、「神」から「人間」への移行では決してなく、「神」と「人間」の同居／使い分けこそがその本質です。「人間性」を深く喧伝される明仁が、父・裕仁以上に宮中祭祀に熱心だった事実を忘れるわけにはいきません。重点を移しながらも「現人神」の思想は戦前・戦後を貫いているのであり、その動員力の危険性は変わることはありません。

「おわてんねっと」は、来年11月に予定されている大嘗祭まで、明仁退位・徳仁即位の全過程に抗議し、マスコミや行政などを通じて拡散される奉祝賛美キャンペーンに反対していきます。巨額の税金を投入して行われる種々の代替わり儀式に異議申し立てを行います。

「終わりにしよう天皇制」は、自由と平和、平等と民主主義を求める私たちの合言葉です。天皇制の名のもとに殺され、屈辱を強いられた無数の人々、天皇制テロルに倒れた人々と共にある言葉です。

無理に無理を重ねなければ存続しえない彼らは決して盤石ではありません。「代替わり」という天皇制最大の動搖期に、ともに声を上げる同志を募ります。おわてんねっとへの賛同を！行動への参加を！

2018年11月25日

終わりにしよう天皇制！『代替わり』反対ネットワーク（おわてんねっと）

□連絡先 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31 キリスト教事業所連帯合同労組気付・靖国天皇制問題情報センター方
TEL:090-3438-0263 mail:owaten@han.ten-no.net ツイッター:「おわてんねっと」

【呼びかけ団体】

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| ■靖国・天皇制問題情報センター | ■「日の丸・君が代」の法制化と強制に反対する神奈川の会 |
| ■反天皇制運動連絡会 | ■天皇制いらないデモ実行委員会 |

- 【終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク（おわてんねっと）】は、2019年11月に予定されている大嘗祭まで、1年間の期間限定の活動を通じて、天皇「代替わり」総体に集中的な反対運動を行います。
- 【おわてんねっと】は賛同団体を広く募ります。普段は違うテーマで活動されている皆さん、主体的に運動を担うことが困難な皆さん、どんな少人数の団体でも、賛同団体に名前を連ねていただくことは大歓迎です。
- 【おわてんねっと】賛同団体は、インターネットを含む団体名の公表が前提です。賛同費は無料です。
- 【おわてんねっと】の諸活動の方針は、月に1～2回開催される事務局会議で決定します。
- 意見の違いを暴力をもって解決しようとする団体の賛同はおことわりします。

【終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク（おわてんねっと）】に賛同します

団体名：

連絡先（住所／メール）：

▼団体名はインターネットをふくむ公開が前提です。▼「おわてんねっと」連絡先まで賛同の旨、連絡下さい。

終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク

◆賛同のよびかけ◆

●憲法に違反して「代替わり」の道筋を作った明仁

いよいよ天皇「代替わり」の時期が近付いてきました。このたびの「代替わり」は天皇自らが退位を宣言し、世論を先導するかたちで国会を動かし、立法までさせて道筋をつけたものです。「憲法を守る」と宣言して30年前に即位した明仁天皇は、憲法に違反して退位を実現させようとしています。

この退位と「代替わり」は、決して人間的な共感をもって迎えられるべきものではありません。明仁は2016年8月の「おことば」の中で、退位の目的を「象徴天皇の務めが途切れることなく、安定的に続していくこと」と明確に述べています。明仁の狙いは一貫して天皇制の維持・強化にあるのです。

●米国主導の戦争に同調しつづけた明仁

安倍政権の強権的な政治が続くなかで、天皇の言動に政権への対抗的な意味合いを持たせる見方が広まったのも「平成」時代の特色です。しかし一層強まる米国への外交・軍事的協調路線は、天皇制とまったく矛盾のないものです。

明仁は、2001年9月の「米NY同時多発『テロ』」時には、ブッシュ大統領に「異例の弔意」を送り、続くアフガニスタンでの「対テロ戦争」では、「戦争による解放」を祝いました。また、イラクに派遣された自衛官を皇居に招いてねぎらいました。「平成」時代の後半、世界で展開してきた米国主導の「対テロ戦争」に対して、明仁は同調する姿勢を貫いてきたのです。

●侵略、植民地支配責任を取れなかつた平成天皇制

冷戦が終わり「平成」時代を通じても、日本政府は侵略や植民地支配の被害者への謝罪や補償を果たすことができませんでした。天皇は92年の訪中や韓国大統領の来日時などに、戦争や植民地支配に関わる発言をしましたが、天皇制の戦争責任への視座を全く欠いた無責任なものに過ぎませんでした。

「昭和天皇は平和を愛していた」と繰り返し述べる明仁の歴史観は、日本社会の歴史観を限界づけてきました。「無責任の象徴」たる天皇を戴いている限り、侵略の歴史を直視することはできません。

●「女性は産む機械」をつづける万世一系

皇位継承問題をめぐって天皇制が大きく動搖したのも、「平成」時代の特徴です。「お世継ぎ」プレッシャーによって皇太子妃雅子がおちいった事態に見て取れるように、皇位継承問題の矛盾は大きく顕在化しました。「国民統合の象徴」が血統主義によって継承される以上、「女性は産む機械」という価値観が日本を支配し続けるのは避けられません。これは、女性天皇であろうと、女性宮家であろうと変わりません。

●メーデーの日を篡奪する新天皇即位

新天皇の即位日が、5月1日に設定されたことも大きな問題です。国境を越え、歴史的想像力をもって労働者の連帯が祝われるべきメーデーの日に、徳仁は即位するのです。新天皇徳仁は、これまでも誕生日会見などで「若者の格差」、「貧困の再生産」に言及するなど、世界を覆う新自由主義が生み出した社会分断に「上からの調和」をもたらすことを自らの使命と感じている節があります。

マスコミ
げいナの
天皇制 29

「秋篠宮」発言をめぐる〈天皇（家）政治〉と〈安倍政治〉 ——〈壞憲天皇明仁〉その27

天野恵一

一月二五日、私たちは「終わりにしよう天皇制！『代替わり』反対ネットワーク」結成行動を、芝居・コント・歌・講演など、こぎやかなメ

と小室さんのご結婚は認められていないことを意味します』（同前）。

ニューの集まりで実現。もちろん、日常化している右翼の暴力的介入つきのデモンストレーションも。

される。一方で、秋篠宮ご夫婦は会見での発言内容を『眞子さまに事前に確認はされていない』(前出・宮内庁関係者) ようで、つまりこの会見でのさまざま重要な発言は、眞子さまに対する両親か

に向けて、ハテに政治的に動き出している（まあ彼や彼女らは、常にマスコミの全面バツクアップつきだからド派手は当然なのだが）。

「このままでは残念ながら破談に向かっていかざるを得ないよう見えるが、／『たえそうだとしても、皇族の眞子さまの方からそれを言い出

せいに報道された二二日の秋篠宮（夫妻）の記者会見は、全マスコミあげて大々的に報じられていく。例年より長く「七〇分にも及んだ」質疑応答の内容にもふれた『週刊文春』「小室圭さんから辞退を誕生日記者会見でも語られなかつた秋篠宮さまの真意』（12／6号）には、こうある。

すわけにはいきません。小室さんには、そうしたすべてを思い巡らせて、自らの責任で判断をしていただきたいと秋篠宮さまはお考えになつていいのです』（同前）。辞退して『破談』にしてくれというメッセージ、そう読むべきだというわけだ。『週刊新潮』（12／6号）の方は一〇月二〇

秋篠宮家関係者が語る。／「驚くべきことに秋篠宮さまは、今ままでは納采の儀を行うことはできない」という趣旨の発言をされたようです。／今年二月に結婚を再来年に延期する事が発表されたため、当初三月に予定されていた（一般的の結納にあたる）納采の儀を行っていない。

日の美智子記者会見発言も、隠された「破談メツセージ」であったという記事もプラスした、秋篠宮発言は「千代田のお城」からの「さよなら」メッセージであるとの解説記事である（「不快感を隠されなかつた『秋篠宮』会見の高すぎる『納采ハードル』」）。「神権王義天皇制」ヨイショメディアで

そのため、小室さんは現状では正式な「婚約者」ではないとされている。／『納采の儀』を行うためには、手続き上、当主である秋篠宮さまが「できない」と断言されたということは、今も眞子さま

あるこの二誌は、あらかたのメディアで大きく取り上げている「大嘗祭は内廷会計で賄うべき」という安倍政権の、昭和「Xデー」を踏襲した政治プログラムを公然と批判したという、もう一つの

の方も右へ倣えである。

一野次日誌

11月1日～11月30日

イタルを鑑賞。終了後、内田と懇談。
徳仁、雅子◆徳仁が、全国農業担い手サミットの開会式などに出席するため、山形新幹線で山形県入り。

明仁、美智子、絢子◆10月29日に結婚した故高円宮の三女絢子と日本郵船社員の守谷慧が皇居・御所を訪れ、明仁、美智子に結婚式が無事終了したことを報告。

美智子◆宮内庁が、体調を崩していた皇后について、せきぜんそくと診断されたと発表。

徳仁、雅子◆東京・丸の内のホテルで開かれた「灯台150周年記念式典」に出席。

久子◆故高円宮の妻久子が、伝統的工芸品月間国民会議全国大会に出席するため、福岡県を訪問。

元号◆菅義偉・官房長官が記者会見で、翌年5月1日の新天皇即位に伴う改元による中央省庁の情報システムの改修作業に関して、「新元号の公表日を改元1ヵ月前と想定して準備を進める方針」。

【11月3日】

明仁◆皇居・宮殿で行なわれた文化勲章の「親授式」に出席し、受章者に勲章を手渡す。

【11月4日】
代替わり◆超党派の国会議員連盟と財界などが、徳仁の新天皇即位に伴う奉祝集会を翌年秋に開く方向で検討していることが分かる。

【11月5日】
天皇、皇族◆明仁、美智子が、「文化勲章」受章者と「文化功労者」を皇居・宮殿にて、国際的なピアースト内田光子のリサ

美智子◆東京都港区のサントリーホールで、国際的なピアースト内田光子のリサ

明仁、雅子◆訪日中のマレーシアのマハティール首相夫妻を皇居・御所に招き、共に昼食。

【11月7日】
元号◆故高円宮の妻久子が記者会見で、翌年5月1日の新天皇即位に伴う改元による中央省庁の情報システムの改修作業に関して、「新元号の公表日を改元1ヵ月前と想定して準備を進める方針」。

【11月8日】
明仁、美智子◆東京都新宿区の明治神宮官房長官が記者会見で明らかに。

【11月6日】
明仁◆「秋の叙勲」のうち、大綬章の「親授式」が皇居・宮殿「松の間」で開かれる。常陸宮◆東京都港区のホテルで開かれた「ねむの木賞」の贈呈式に出席。ねむの木賞は、美智子が作詞した「ねむの木の子守歌」の著作権を「日本肢体不自由児協会」に贈つたことを記念し創設されたと報道。

明仁◆皇居・宮殿で行なわれた文化勲章の「親授式」に出席し、受章者に勲章を手渡す。

【11月9日】
代替わり◆超党派の国会議員連盟と財界などが、徳仁の新天皇即位に伴う奉祝集会を翌年秋に開く方向で検討していることが分かる。

【11月10日】
天皇、皇族◆明仁、美智子が、「文化勲章」受章者と「文化功労者」を皇居・宮殿にて、国際的なピアースト内田光子のリサ

美智子◆東京都港区のサントリーホールで、国際的なピアースト内田光子のリサ

明仁、雅子◆訪日中のマレーシアのマハティール首相夫妻を皇居・御所に招き、共に昼食。

【11月12日】
秋篠宮◆東京都港区の石垣記念ホールで、優れた林業関係者を表彰する式典に出席。式典後、表彰を受けた人々を祝福するパーティーに出席し、林業関係者と交流。

【11月13日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

明仁、美智子◆宮内庁が、明仁、美智子が27日から1泊2日の日程で、静岡県を

【11月14日】
明仁、美智子◆宮内庁が、明仁、美智子

が27日から1泊2日の日程で、静岡県を

【11月15日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月16日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月17日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月18日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月19日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月20日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月21日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月22日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月23日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月24日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月25日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月26日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月27日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月28日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月29日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

【11月30日】
明仁、美智子◆東京都千代田区の紀尾井ホール

招き懇談。徳仁、雅子と秋篠宮、紀子が同席。

明仁在位30年◆明仁在位30年を記念した1万円金貨と500円銅貨の打ち初め式が、大阪市北区の造幣局で開かれる。

元号◆政府が、翌年5月1日の徳仁の新天皇即位に伴う改元を控え、新旧の元号は商標登録できない対象であると明確に

するため、審査基準を翌年2月をめどに見直す方向で検討に入ったと、菅義偉・官房長官が記者会見で明らかに。

【11月6日】

明仁◆「秋の叙勲」のうち、大綬章の「親授式」が皇居・宮殿「松の間」で開かれる。常陸宮◆東京都港区のホテルで開かれた「ねむの木賞」の贈呈式に出席。ねむの木賞は、美智子が作詞した「ねむの木の子

明仁、美智子◆東京都新宿区の明治神宮外苑にある聖徳記念絵画館で、明治維新150年を記念した特別展「明治日本が見た世界」を鑑賞。

【11月8日】
明仁◆山形県上山市の県立ゆきわり養護学校を訪れ、幼稚部や小学部の授業のほか、高等部の生徒らが文化祭のバザーのリハーサルに取り組む様子を観察。

【11月9日】
雅子◆宮内庁東宮職が、明仁、美智子「主催」の9日の園遊会に、雅子が体調に支障がなければ15年ぶりに最後まで参加する」と発表。

【11月10日】
秋篠宮◆東京都港区の石垣記念ホールで、優れた林業関係者を表彰する式典に出席。

【11月11日】
秋篠宮、紀子◆東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、全国から選ばれた中学生が学校生活や家族についてスピーチする「第40回少年の主張全国大会」に出席。

【11月12日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月13日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月14日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月15日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月16日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月17日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月18日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月19日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月20日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月21日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月22日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月23日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月24日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月25日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月26日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月27日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月28日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月29日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月30日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【11月31日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月1日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月2日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月3日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月4日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月5日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月6日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月7日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月8日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月9日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月10日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月11日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月12日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月13日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月14日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月15日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月16日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月17日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月18日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月19日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月20日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月21日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月22日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月23日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月24日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月25日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月26日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月27日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月28日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月29日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月30日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【12月31日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月1日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月2日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月3日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月4日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月5日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月6日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月7日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月8日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月9日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月10日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月11日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月12日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月13日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月14日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月15日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月16日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月17日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月18日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月19日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月20日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月21日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月22日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月23日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月24日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月25日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月26日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月27日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月28日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月29日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月30日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【1月31日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月1日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月2日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月3日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月4日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月5日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月6日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月7日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月8日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月9日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月10日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月11日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月12日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月13日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月14日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、開催中の日本美術展覧会（日展）を鑑賞。

【2月15日】
秋篠宮、紀子◆東京・六本木にある国立新美術館を訪れ、

町の憲政記念館で設立総会を開く。
【11月27日】

〔11月29日〕

明仁、美智子◆「私的旅行」のためJRの特別列車で静岡県入り。掛川市で、女優宮城まり子が運営する養護施設「ねむの木学園」を訪ねる。敷地内の美術館で園生らが手掛けた絵画作品などを鑑賞。袋井市に移り、ベトナムの独立運動を支援した医師浅羽佐喜太郎の記念碑や、ゆかりの展示を見て回る。

の美術品などを紹介する特別展「両陛下と文化交流」を翌年3月5日～4月29日に東京国立博物館（東京）で開催すると発表。明仁の即位30年記念として宮内庁や読売新聞社などと共に主催すると報道。

全日本中学校英語弁論大会の70周年記念セレブションに出席。故高円宮の妻久子が出席。

の礼」や皇位継承の重要儀式「大嘗祭」は、憲法が定める政教分離の原則に反するとして、市民団体「即位・大嘗祭違憲訴訟の会」が、国に1人当たり1万円の損害賠償と、儀式に公金を支出しないよう求める訴訟を、12月10日に東京地裁に起こすと明らかに。原告は、安倍晋三首相の靖国神社参拝違憲訴訟に関わってきた市長やキリスト教、仏教の宗教関係者ら約

学を訪れ、「水と災害に関する国際シンポジウム」を聴講。

美智子に誕生日のあいさつをするため皇居・御所を訪問。半蔵門を通り、

國費を支出する政府方針に変更はない」と強調。秋篠宮が宮内庁の山本信一郎長

220人と報道。／衆院内閣委員会で、
徳仁が天皇に即位する翌年5月1日と「即

代替わり◆経済団体やスポーツなど各界の代表千人以上が参加する「天皇陛下御即位30年奉祝委員会」が、東京都内のホテルで設立総会を開く。

秋篠宮、紀子◆秋篠宮が53歳の誕生日を迎へ、これに先立ち東京・元赤坂の宮邸で紀子と共に行なつた記者会見の内容が公表される。「大嘗祭」について「宗教

官に対し「話を聞く耳を持たなかつた」と批判したことについて、山本長官が記述する。会見で「そのようにお受け止めになつたのであれば申し訳ない」と謝罪した上

位礼正殿の儀が行われる同10月22日を祝日とする特別法案を与野党の賛成多数により可決。採決に先立つ質疑で菅義偉・官房長官が、祝日とする理由について「天

明仁、美智子◆静岡県浜松市にある外国人学習支援センターを訪れ、訪日して間もない外国人向けの日本語の授業を視察。代替わり◆日本郵政の長門正貢社長が東京都内で記者会見し、天皇の代替わりに伴う10連休中の配達を検討する考えを表明。「前向きに何らかの対応を取りたい」。

が強いものを国費で賄うことが適當かどうか」「できる範囲で身の丈に合った儀式にすることが「本来の姿」と述べ、宮内庁の山本信郎長官らに意見を伝えたが「話を聞く耳を持たなかつた。残念」と批判したと報道。眞子と婚約が内定している小室圭について、金銭トラブルを念頭に国民に説明を尽くすよう求めたと報道。

ば、前例踏襲は妥当である」。「(今回も宮廷費で賄うことには)既に決定済み。その方針に従つて準備を進める」と述べ、前回の費用について「有識者のヒアリングや内閣法制局との議論を積み重ねた」と訴え、秋篠宮にも前例踏襲の妥当性を説

皇の即位に国民こそつて祝意を表すため、これまでの立法例に倣つた。天皇誕生日一般参賀◆宮内庁が、12月23日の天皇誕生日に皇居・宮殿の東庭で実施する一般参賀の要領を発表。参賀者の滞留対策として、初めて東庭に大型スクリーンを設置し、明仁らの様子を映し出すと報道。

会館にて、練馬の会の第三回学習会が、講師こ井土森さん（立川自衛隊監視隊）

井上さんは、長らく反戦運動と反天皇運動で活動してきました立場から、「平成

以前は、アキヒト天皇は昭和天皇が出来なかつた皇室外交を積極的に展開し、歓

練馬の会学習会「派兵時代の天皇制」

ト村）をお招きして、二八名が集まり開催された。前回の同学習会では、ネットでヘイ右翼が会場前に押しかけ、マイクでヘイト情宣を行い妨害されたが、今回は、彼

時代の自衛隊海外派兵の拡大を、アキレス腱は、日本が経済・軍事上のアジアのトツトツ平和天皇という言説の広がりが後方にえしてきたことを証明された。具体的には、日本が経済・軍事上のアジアのトツ

米の旧連合国（フランス、オランダ）や
アジア諸国（タイ、マレーシア、イン
ドネシア、中国）を歴訪した。しかし、
二〇〇五年以降はアメリカへの従属が深

一〇月二五日（金）夜、練馬厚生文化

らは来ることがなく、ほつと胸をなでおろした。

プランナーの地位から転落した【二〇〇五年】の前と後で分析を行い、一〇〇五年

まる中で、天皇皇后の「テロとの戦争」容認発言が目立つ一方、アジア諸国と

一、准子、久子◆德一、准子が東京郊

明治二年正月
明治二年正月

の「上からの和解」は停滞する。一方、二〇〇五年を貫いて、天皇・皇后による戦死者の「慰靈・追悼」が続けられてきて、それは「昭和天皇は平和主義者」であり、「反天皇も民衆も軍部・軍国主義者の犠牲者であり、戦死者は「戦後日本の礎」であるという一貫した考えに裏打ちされていることを指摘された。そして、「二〇〇五年体制」を受け止めきるが、天皇制に対峙する反戦派の道である、と結論づけた。井上さんの、二〇〇五年を境に線引きをする状況分析は目からウロコで、また、天皇后の公的発言の細かい分析には目をみはった。質疑応答も積極的に行われ、「派兵時代の天皇制」について共通認識を深める機会となつた。

次回は、一二月二二日（金）一八時半から、結成一周年集会「明治一五〇年」、近代天皇制国家を問う（講師・太田昌国さん・於・練馬区役所二〇階交流会場）。

（練馬の会／中川信明）

象徴『天皇陛下』万歳『反安倍（リベラル）』でいいのか？

…………

一一月一八日午後三時からピープルズ・

プラン研究所で「（平成）代替りの政治を問う」連続講座」の第8回「象徴『天皇陛下』万歳『反安倍（リベラル）』でいいのか？」が開催された。参加者は一六人。

今回、天野恵一さんが司会をし、白川真澄さん・平井玄さん・松井隆志さん・米沢薫さんの四名が問題提起をするといふ形で行われた。

まず天野さんから、九月に発行した「季刊ピープルズ・プラン」81号の特集「象徴『天皇陛下』万歳の『反安倍（リベラル）』でいいのか？」の説明があつた。現在、「反安倍」の護憲運動や市民運動が高揚しているにも関わらず、なぜそれらの運動の中に天皇制批判や日米安保条約そのものの立場を明確にした知識人や文化人の内の少なからぬ人がなぜ天皇賛美の文章を書くのか、を考察したかったとのこと。白川さんからは、「天皇と安倍政治の間の矛盾・対立をどう見るか」「なぜ、『リベラル』派が天皇制になびくのか」「リベラル」という問題」等について問題提起があつた。

平井さんは、島蘭進・片山杜秀・内田樹・白井聰などの天皇擁護発言を分析しつつ、かつての知識人の月並みな転向パターントとの共通点もあるが、同時に現在は天皇制自体がグローバル時代に直面して大きな危機を迎えており、と指摘された。

松井さんは、特集の感想を中心には、「政治・社会の判断を、歴史的経緯を踏まえて（「ベクトル」として）考えることの重要性」を思った、と話された。

一一月一八日午後三時からピープルズ・

プラン研究所で「（平成）代替りの政治を問う」連続講座」の第8回「象徴『天

皇陛下』万歳『反安倍（リベラル）』でいいのか？」が開催された。参加者は一六人。今回、天野恵一さんが司会をし、白川真澄さん・平井玄さん・松井隆志さん・米沢薫さんの四名が問題提起をするといふ形で行われた。

まず天野さんから、九月に発行した「季刊ピープルズ・プラン」81号の特集「象徴『天皇陛下』万歳の『反安倍（リベラル）』でいいのか？」の説明があつた。（講座運営委員会／田中）

東京育樹祭反対行動

…………

一一月一七・一八日、皇太子出席のもと、東京育樹祭が江東区の海の森公園予定地（二七日）と、調布市の武蔵の森総合スポーツ（二八日）で開催された。

いわゆる天皇「三大行事」として植樹祭が毎年行われているが、天皇が植樹した地域を皇太子が訪れ、「お手入れ」をする儀式が育樹祭（全国国土緑化機構主催、林野庁後援）。今回のそれは、一九九六年の東京植樹祭に対応するものだ。今回「お手入れ」は海の森でおこなわれたが、五〇〇〇人規模の記念式典は、なぜか植樹祭とは関係のなかつた武蔵の森総合スポーツ（二八日）で行われた。

首都圏で反天皇制の共同行動をとりくむ「終わりにしよう天皇制！（代替わり）反対ネットワーク」（おわてんねつと）のメンバーは、朝七時に式典会場に続く京王線飛田駅前に集合し、ビラまき情宣を行なつた。

式典開始は一〇時。にもかかわらずこんなに朝が早いのは、一般参加者は厳重なボディチェックを受けるために朝八時に集まることになつてゐるからだ。つまりは、天皇警備のあおりでもある。

なお、その日の午後、朝のビラまきに参加していたAさんが所用で近所に出て、たまさか皇太子が通るという。立ち止まって眺めていたところ、一二、三〇人の私服に二重三重にとり囲まれて封じ込められてしまつた。ちなみに、式典会場から東宮御所に帰るために遠回りになるコース。どこで寄り道をしてたのか。皇太子の車が通り過ぎてようやくAさんは「解放」された。

天皇・皇族が行くところ、常に人権侵害が繰り広げられるのだ。

（反天連／北野誓）

終わりにしよう天皇制 2018 大集会＆デモ

…………

一一月二五日、千駄ヶ谷区民会館で「終わりにしよう天皇制 2018 11・25大集会＆デモ」が開催された。主催は（終わ

に市民の一般参加者がぞろぞろと通つていく。ビラの受け取りは悪くなく、一時間ほどで三〇〇枚近くがはけたが、反対運動の存在を想定していないためか、ビラを見てぎょっとした顔をした人もちらほら。

事前に想定していなかつたのは権力の側も同じだつたようだ。情宣を始めてしまらくすると、七、八人の私服がわらわらやつて来て、写真を撮つたりしていたが、とくに介入はなかつた。こいつらは、

本書は靖国神社の合祀基準の変遷を豊富な資料でたどつたものだが、極めて詳細である反面、分析や論理化が弱いとの感は否めない。

遺族への金銭支給と靖国合祀はゆるやかに連動し、「慰靈・追悼・顯彰」を通じて戦死者再生産装置は機能し続けた。しかしそく見れば、戊辰戦争までは「雑多な軍隊」と言える程に様々な職種・階級・身分が入り混じっているものが、軍

赤澤史朗『戦没者合祀と靖国神社』
(一〇一五年、吉川弘文館)

「学習会報告」

真金は第一回、二回、三回、一回もレポートしておらず、その代り「あの娘」と、栗原康さん講演。コントは昨年も登場した気鋭の「芸人」。今回は声の新人も。栗原さんの講演「みんな天皇制がきらい」は、「大正時代」の大杉栄批判として、金子文子や朴烈、大杉栄

問題を継続的に考えて来たグループが、トワーク（おわてんねつと）。首都圏のそれぞれに課題を持ちながらも天皇制の天連も参加している。これはその結成お

時の天皇制・反天皇制の思想について語られ、象徴天皇制論にいきつく。当時の思想が、現代社会にも通じる部分も少なくなく、この変わらなさは恐い。

二部は「野戦之月」有志の会による芝居で幕開け。野戦之月が屋根・壁・床に囲まれて公演。そこは暗い皇居の「お堀」端か。河童に連れてこられた車いすの男と、そこに現れる怪しき者たちとの会話。会場はすっかりテントと化した。「野戦之月」はすっかりテントと化した。「野戦之月」は

発言。まるで数本のコラムを一気に読まされた感。それぞれのテーマは切実で、凝縮された時間であった。最後に、おっちゃんズによる「元号やめよう」と「天皇制はいらないよ」の歌。元気倍増でデモ出発。

朱に金色の龍踊る縦断幕と旗やプラカード。原宿・渋谷の街に「終わりにしよう！天皇制」の声を響かせた。

（おわてんねつと／太子）

- 11月10日（土）●連続講座 安倍改憲と憲法9条・第2回「自衛隊と防災・災害救助」
- 11月14日（水）●原発被ばく労災あらかぶさん損害訴訟第10回口頭弁論
- 11月17日（土）●ピープルズ・プラン研究所総会講演会
- 11月18日（日）●東京育樹祭反対情宣（集会の真相参照）
- 「平成」代替わりの政治を問う・連続

10月26日（金）●原電包囲行動
11月9日（金）●即位・大嘗祭違憲訴訟の会・立ち上げ集会

11月9日（金）●原電包囲行動
●即位・大嘗祭違憲訴訟

11月25日（土）●終わりにしよう天皇制
2018大集会&デモ（集会の真相参照）

著者はそれを望ましい変化とし、観に合わせて軍人だけでなく空襲被災者を含む多くの民間人をも「戦没者」として合祀する民主的で平和的な靖国神社を讀んでもそれに気づかず、もちろん国家による追悼の問題性や天皇制の問題などは視野にない。前著『靖国神社』を讀んでもそれだけでは、靖国解体企画で講演依頼をして断られたことがあつたが、今ならそれも理解できる。ああ、僕たちのなんと間抜けなことよ！

僕が一番気になつたのは軍夫たちの存在である。戦争は軍人だけで行う

クローズアップされた。軍夫、夫卒、傭人夫、雇員、傭人、馬丁、従卒、工夫等々と様々な呼び方をされた人々は、アンダーカラスである僕の隣人、同僚たちだ。徴兵されずとも貧困層は戦争動員からは逃げられず、挙句「手段を選ばず利益を得ようとして参加」と死後も蔑まれる。それは僕たちの未來の姿もあるのだろう。彼らのことをもつと知りたいのだが、研究書などあるんだろうか？ これから調べてみようか。

次回は橋川文三『ナショナリズム』（ちくま学芸文庫）を読む。（加藤匡通）

開催中～2019年2月17日●日本人「慰安婦」の沈黙
13時～18時（月・火・休日休館）／W
AM・女たちの戦争と平和資料館（地下鉄早稲田駅ほか）／連絡先・同館
(03-32024633)

12月5日（水）●元号いらない署名提出行動
13時／衆議院第一議員会館（地下鉄国
会議事堂前駅ほか）／主催・元号はい
らない署名運動 (090-3438-0263)

12月7日（金）●2020オリンピック
ボランティア動員？おかしいぞ！本間
龍さんを迎えて 学習講演会
18時開場／文京シビックセンター4F
シルバーホール（地下鉄後楽園駅ほか）
／本間龍／主催：「オリンピック災害」
おことわり連絡会 (080-5052-0270)

12月14日（金）●どうなつてざるの～
うなるの中東情勢
18時15分開場／練馬区民産業プラザ
(こ)ねり) 3F多目的室（西武池袋
線ほか練馬駅中央北口）／田原牧／主
催・戦争に協力しない！させない練馬
アクション、憲法骨抜きNO！ねりま
(090-5205-5803池田)

12月15日（土）●わたしたちの声を国連
へ
13時30分開始・15時30分デモ／青山学
院大学17号館3F（地下鉄表参道駅ほ
か）／主催・国連・人権勧告の実現を！
実行委員会 (090-9804-4196長谷川)

●新たな天皇代替わりにどう立ち向かう
か
13時30分～／吾妻交流センター大会
議室（TXつくば駅）／中川信明／
主催・戦時下の現在を考える講座
(090-8411-1457 加藤)
●改憲を先取りする新しい「防衛大綱」
に反対する
17時30分／文京区民センター3C（地
下鉄春日駅ほか）／大内要二／主催・
大軍拡と基地強化にNO！アクション
2018 (03-3961-0212 北部労働者法
律センターほか)

●女天研講座特別編 ハンセン病元患者
が残した絵から見えてくるもの
18時15分開場／文京シビックセンター
5F会議室AB（地下鉄後楽園駅ほか）
／藏座江美／主催・女性と天皇制研究
会 (jotenken@yahoo.co.jp)

12月20日（木）●詫諭集会 今、改憲と
どう向き合つのか
18時15分開場／南部労政会館（JR大
崎駅）／清水雅彦／主催・戦争・治安・
改憲NO！総行動 (03-3591-1301 救援
連絡センター)

12月21日（金）●「明治150年」近代
天皇制国家を問う
18時30分予定／練馬区役所20F交流会
場（西武池袋線ほか練馬駅）／太田昌
国／主催・アキヒト退位・ナルヒト即
位問題を考える練馬の会、協賛・部落
解放同盟練馬支部 (090-5205-5803 池田)

12月22日（土）●大杉栄「自
由
18時～／文京区民センター2A（地下
鉄春日駅ほか）／安田浩一／主催・沖
縄への偏見をあおる放送をゆるさない
市民有志 (nonewsjyoshi@gmail.com)
●「……福田」
●「来年は忙しいぞ。みなさま、このひや
じ一緒に！太田さん連載はお休みで状
況批評／演場トース。木暮)
●「これ以上の忙しさが待つてゐるなんて
……、恐ろしい。みんな体には気をつ
けてね～（鶴）
●「忙しさに決まつてゐる来年の予定の話
をしながら奥の方々がハイハイ盛つ上
がつてゐる。（蝙蝠）
●「なんともムチャクチャなスケジュール
での活動が続いている。そして、もう年
末である。なんどこいつは～あれ～。（熊）
●「いつだつて忙しいと思つて忙しがつて
いたけれど、確かに忙しいかも。その分
を想ひと怖いよ。」自殺の年末を！（豹）

12月23日（日）●A-1er-t!!「代替わり」
状況へ一反天連討論集会
15時開場／日本キリスト教会館4F（地
下鉄早稲田駅ほか）／天野恵一、小倉
利丸、北野薫、桜井大子／主催・反天
皇制運動連絡会
●アジアから見た「天皇制」－「天皇代
替わり」を前に知つておきべき」と。
13時30分～／静岡県男女共同参画セン
ターあざれあ（JR静岡駅）／森正孝
／主催・天皇制を考える会静岡、映画
「侵略」上映委員会 (080-6912-3823山河)

12月24日（月）●天皇「代替わり」に反
対する2・11行動
13時30分開場予定／在日韓国Y.M.C.A
9F（JR水道橋駅ほか）／主催・同
実行委員会 (090-3438-0263)

2月2日（土）●大杉栄「自叙伝・日本
脱出記」第4回
18時～／シビル3F（JR立川駅）／
加藤晴康／主催・シビル (042-524-9014)
2月11日（日）●天皇「代替わり」に反
対する2・11行動
18時～／シビル3F（JR立川駅）／
加藤晴康／主催・シビル (042-524-9014)
●「終わつてないぞ！D.H.C「ニコース女
子」問題 沖縄ヘイトをゆるさない集
い
2019年1月12日（土）●大杉栄「自
由
18時～／文京区民センター2A（地下
鉄春日駅ほか）／安田浩一／主催・沖
縄への偏見をあおる放送をゆるさない
市民有志 (nonewsjyoshi@gmail.com)
●「……福田」
●「来年は忙しいぞ。みなさま、このひや
じ一緒に！太田さん連載はお休みで状
況批評／演場トース。木暮)
●「なんともムチャクチャなスケジュール
での活動が続いている。そして、もう年
末である。なんどこいつは～あれ～。（熊）
●「いつだつて忙しいと思つて忙しがつて
いたけれど、確かに忙しいかも。その分
を想ひと怖いよ。」自殺の年末を！（豹）